

インカレディベート 参加報告

第 15 期生 手束 健人

◆インカレディベートとは...?

2009 年に始まったインカレディベートも、今年で 9 回目を迎えました。今年度は、中央大学の久保ゼミと関西大学の岩本ゼミ、千葉ゼミ、そして立命館大学の菊盛ゼミと、過去最大の 5 つのゼミが参加する大会となりました。小野ゼミは、関西大学の岩本ゼミ、千葉ゼミとディベートを 1 試合ずつ行いました。ディベートと採点方式は小野ゼミ方式を採用しておりますが、普段関わる機会の少ない他のゼミのメンバーと議論を行うことによって、立論や資料作成等、お互いに良い刺激を受けることができます。



本番前に打ち合わせを行う 1 試合目メンバー

◆活動後記

小野ゼミに入会した 3 年生にとって初めての大きな舞台となるのが、インカレディベート大会です。つまり、小野ゼミの「負けたら終わり」というプレッシャーを初めて味わう機会となるのです。私たちは、そのプレッシャーに負けないように、そして、小野ゼミの名に恥じないように、準備を念入りに行いました。



冷静沈着な反駁を行う野口

1 チーム目は、「総合家電メーカーは従来のフルラインナップ戦略を続けるべきか?」というテーマで、岩本ゼミとディベートを行いました。前日のゼミでボロボロに負けた先輩たちの良いところを吸収して当日までにモノにしようと、打ち合わせと練習をし続けており、プレッシャーを感じる暇もなく挑むことができました。「100 のうち 1 でも欠けるとフルライン戦略とは言えないのではないか」という、フルライン戦略の定義について終始する、非常に泥臭いディベートとなりましたが、ディベート中に付箋を回しあって意見を常に

共有するなど、各々が協力し合い、終始発言することによって主導権を握り続け、相手を圧倒することが出来ました。その甲斐あって、無事勝利で飾ることができました。

続いて 2 チーム目は、「駅前 vs 郊外、スーパーはどちらに出店すべきか」というテーマで、千葉ゼミとディベートを行いました。もちろん、2 チーム目も 1 チーム目と同じく、直前まで打ち合わせと練習をしており、また、このテーマはゼミの中で苦勞して練られ、何回もディベートを行っていただけであり、全員が議論のポイント、議論の切り返し方を熟知していました。これらのおかげで、こちらのチームもプレッシャーとは無縁で、終始相手を圧倒することができ、素晴らしいディベートを行いました。こちらのディベ

ートでは駅前派の立地の良さと郊外の競争の少なさをアピールし
 あうディベートとなりましたが、郊外派の競争が少なからずとも
 存在することを指摘することができ、相手の立論をうまくつぶす
 ことが出来ました。結果として、2チーム目も勝利することができ、
 1か月以上もの努力が報われました。第15期全員、無事勝利する
 ことが出来たことを大変嬉しく思い、終わった後に腰の力が抜けて
 立てなくなるほど、安堵する人もいました。



堂々と反駁する著者

ディベートで全力を出し切った後は、毎年恒例の「つるの屋」で

の懇親会。小野ゼミがディベート中に行っていたチーム内での激しい付箋のやりとりなど、各ゼミの良い
 ところについて意見の交換が行われたり、その場で仲良
 くなった人と飲み会後も親しくさせていただいたりする
 など、普段交流する機会のない久保ゼミ、岩本ゼミ、千葉
 ゼミ、菊盛ゼミの方々と親睦を深めたことは、とても貴重な
 経験となりました。



懇親会でうさん臭さを発揮する会場

最後になりますが、前日の夜遅くまで大学に残り、相談
 に乗ってくださった小野先生。時として厳しく、時として
 優しくご指導していただいた大学院生、および第14期生
 の方々、本当にありがとうございました。



5ゼミ合同写真（著者は前から3列目、右から3番目）